

第8回ネット小説大賞受賞作

娘、夫、ママ友、そして自分の母……。親子関係、人間関係の“つながり”を描く物語『**あなたを愛しているつもりで、私は——。娘は発達障害でした**』8月11日発売

本書は物語として読みやすく、主人公の心の変遷が生き生きと描かれている。しかしこれを単なる小説として終わらせるのではなく、このようなつらい葛藤を体験する人を少しでも減らせるような、社会としての対策のあり方を考える機会としていただければと願う次第である。
監修・解説: 本田秀夫(信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授)



発達障害と診断された娘を持つ母親の悩みと葛藤を描いた小説『あなたを愛しているつもりで、私は——。娘は発達障害でした』を8月11日に発売します。

本書は、第8回ネット小説大賞受賞作で、著者・遠宮にけ氏にとってデビュー作となります。発達障害を専門にするスペシャリストである本田秀夫氏(信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授)が監修。フィクションですが、現実の発達障害についての理解を深められる一冊です。

メインテーマである発達障害を持つ子どもとの関わりだけでなく、夫やママ友、主人公自身の姉妹や母親との関係も描かれており、人間関係に悩んだことのある親世代や、それを周囲で見守る方々にもぜひ手に取っていただきたい書籍です。

(あらすじ)

深町夕子の娘・七緒には奇妙なこだわりがあり、一方的に話し続け、人とのコミュニケーションがうまくいかない……。 “普通ではない”娘の言動に悩んでいた夕子は、七緒に検診を受けさせる。そこで伝えられたのは「発達障害の傾向がある」ということだった。娘との関係、夫との関係、ママ友との関係、自分の母との関係。 “普通”とは違う娘を抱えながら自らの進む道を見つけていく、母親の物語。

『あなたを愛しているつもりで、私は——。娘は発達障害でした』

定価: 1650円(税込) / 発売日: 2021年8月11日

特設サイト: https://www.cg-con.com/novel/publication/08_treasure/07_anata/

フィクションだからこそさまざまな人物に気持ちを重ね、子育て期の濃密なとき、自らの子ども時代にダイブできる物語です。ただでも不安な初めての子育て。周囲にモデルを見出すことができない困惑をひとりで抱え込み、もがいた主人公のように、いくつもの思い込みにがんじがらめになって踏ん張っている誰かの、自分を鞭打つ手を緩めるきっかけになればと願います。

【著者】
遠宮にけ (とおみや・にけ)
プロフィール

東京都在住。2020年『星に願う～娘は発達障害でした～』で第8回ネット小説大賞を受賞。2021年、上記作品を改稿・改題した本作でデビュー。ペンネームは大好きな『ニルスと女神像「サモトラケのニケ」のNikeにちなんで、Nilceと書いてにけ。

共感と、作品が多くの人々の支えになってほしいという感想が多数

読者から寄せられた感動コメント

「昨今増えている発達障害をテーマにしたこの作品。理解しがたい娘の行動に戸惑い、苦しむ夕子の姿は、実は特別なものではないです。正解は、その子それぞれに違う。家族は、それを模索し続ける。家族の形が最良になるように、考え続け、実践し続ける。涙なくしては読めません。」

「にけさんの作品が本になって、同じ境遇に置かれた人の元へ届くと思うと、嬉しです。「あなただけじゃないよ」と、発達障害の子を持って悩む方々の支えになりますように。」